

オ. クモ類

抽出の結果、表 5.2.8.59～60 に示すとおり文献資料に基づく種として、2科2種が確認され、現地調査では、2科3種が確認された。

現地での確認位置を図 5.2.8.20 に、各種の確認状況及び一般生態は表 5.2.8.61 に示すとおりである。

表 5.2.8.59 注目すべきクモ類一覧（文献資料）

No.	目名	科名	種名 和名	文 献				選定根拠				
				①	②	③	④	1	2	3	4	
1	クモ	ジグモ	ワスレナグモ			●					NT	VU
2		コガネグモ	コガネグモ			●						要
1目2科2種				0種	0種	2種	0種	0種	0種	0種	1種	2種

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.60 注目すべきクモ類一覧（現地調査）

科名	種名(和名)	選定基準				調査範囲								
						実施区域				実施区域の周辺地域				
		1	2	3	4	春季	初夏	夏季	秋季	春季	初夏	夏季	秋季	
ジグモ	ワスレナグモ			NT	VU				●					●
トタテグモ	キノボリトタテグモ			NT		●								
	キシノウエトタテグモ			NT		●				●				
2科3種		0種	0種	3種	1種	2種	0種	0種	1種	1種	0種	0種	0種	1種
						3種				2種				

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.61 注目すべきクモ類の確認状況及び一般生態

種名 (和名)	項 目	内 容
ワスレナグモ	確認状況	秋季調査時において、実施地区で幼体の巣及び古巣2個が確認されたほか、実施区域の周辺地域で成体1個体、幼体の巣6個が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州に分布する。草地や畑地、公園、社寺林の境内等の地中に縦穴を掘って巣をつくるが、入り口に扉は付けない。土地の開発や公園の改修、過度の清掃等により、生息環境の減少がみられる。また、バルーニング（空中分散）を行うが、大きな距離を移動できないため、移動・分散性は低い。
キノボリトタテグモ	確認状況	実施区域の小規模樹林において、春季に幼体の古巣1個が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州、琉球に分布し、社寺林の樹幹上や古木の樹皮上、低山の切り通しに扉を付けた短い巣をつくる。社寺の石垣や林道の改修工事等により、生息環境が減少しつつある。また、バルーニング（空中分散）を行わず、移動・分散性は低い。
キシノウエトタテグモ	確認状況	春季調査時において、実施区域の小規模樹林で雌の巣2個と幼体の巣3個が確認されたほか、実施区域の周辺地域で雌の古巣1個と幼体の巣2個が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州に分布し、西日本には少ない。社寺の石垣、崖地や切り通しの地中に穴を掘り、入り口に片開きの扉をつける。社寺の石垣や林道の改修工事等により、生息環境が減少しつつある。また、バルーニング（空中分散）を行わず、移動、分散性は低い。

注) 参考：環境省自然環境局野生生物課「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブック7 クモ形類・甲殻類等」（平成18年）

株式会社学会出版センター「クモの生物学」（昭和62年）

神奈川県立生命の星・地球博物館「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年）

凡 例

-  実施区域
-  調査範囲
-  確認位置 (春季)
-  確認位置 (秋季)

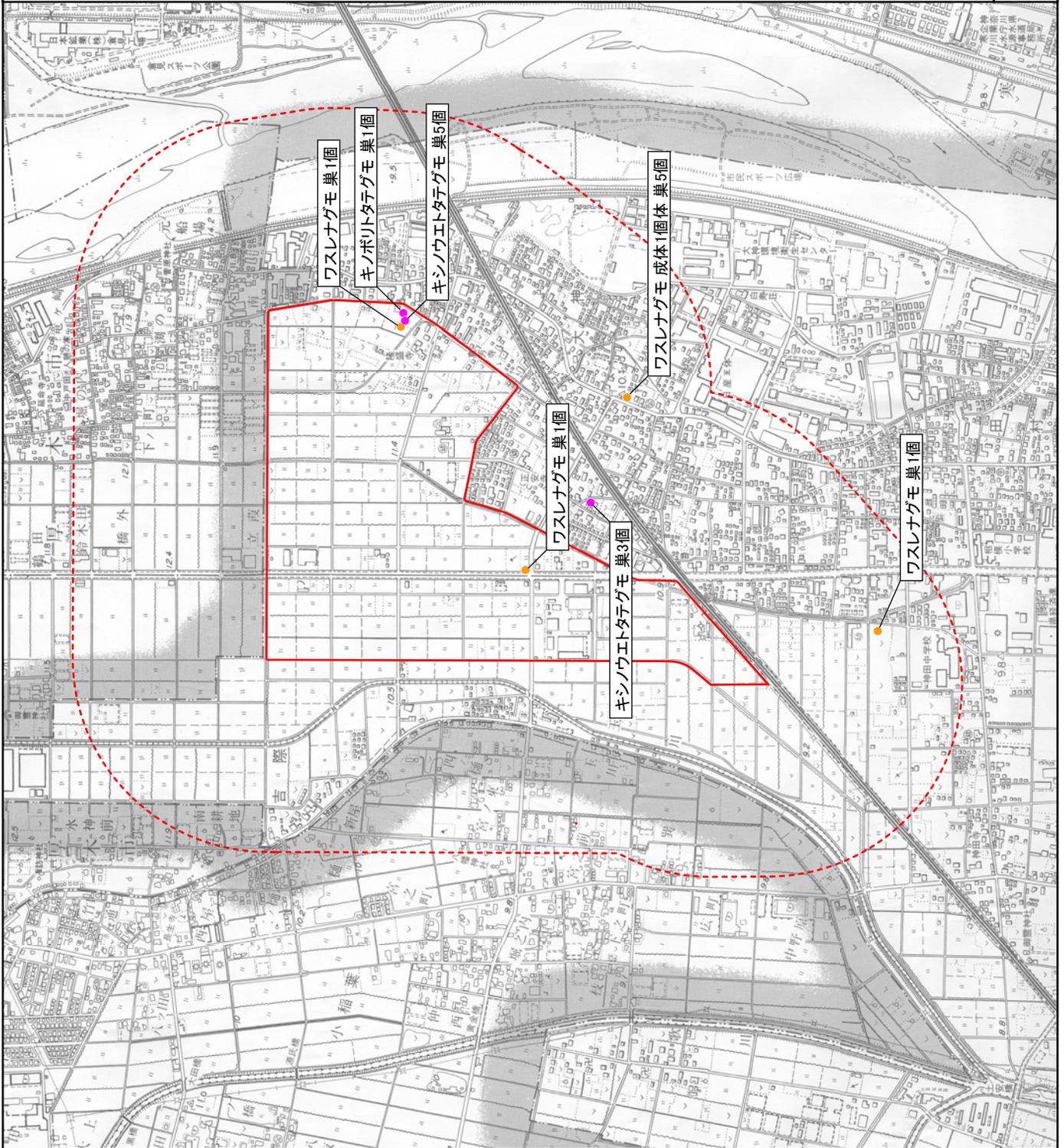


図5.2.8.20
注目すべきクモ類の確認位置

カ. 土壌動物

抽出の結果、表 5.2.8.62 に示すとおり、現地調査では、7 科 9 種が確認された。

現地での確認位置を図 5.2.8.21 に、各種の確認状況及び一般生態は表 5.2.8.63(1)～(2)に示すとおりである。

表 5.2.8.62 注目すべき土壌動物一覧（現地調査）

科名	種名(和名)	選定基準					調査範囲							
							実施区域				実施区域の周辺地域			
		1	2	3	4	5	春季	初夏	夏季	秋季	春季	初夏	夏季	秋季
ジグモ	ワスレナグモ			NT	VU							●		
トタテグモ	キノボリトタテグモ			NT		●								
	キシノウエトタテグモ			NT			●		●	●				
ケラ	ケラ				要			●						
クビナガカメムシ	クロクビナガカメムシ				DD					●	●			
グンバイムシ	ヤブガラシグンバイ				DD									●
オサムシ	フタバシチビゴミムシ				NT									●
	コホソナガゴミムシ				NT		●							●
	ニセトックリゴミムシ					二	●	●	●	●	●			
コガネムシ	アイヌケシマグソコガネ				NT			●						
ゴミムシダマシ	キイロテントウゴミムシ ダマシ					二				●	●	●		
7 科 9 種		0 種	0 種	3 種	7 種	2 種	1 種	3 種	3 種	2 種	4 種	4 種	1 種	3 種
							6 種				8 種			

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.63(1) 注目すべき土壌動物の確認状況及び一般生態

種名(和名)	項目	内容
ワスレナグモ	確認状況	実施区域の周辺地域の公園において、初夏に幼体の巣 2 個が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州に分布する。草地や畑地、公園、社寺林の境内等の地中に縦穴を掘って巣をつくるが、入り口に扉は付けない。土地の開発や公園の改修、過度の清掃等により、生息環境の減少がみられる。また、バルーニング（空中分散）を行うが、大きな距離を移動できないため、移動・分散性は低い。
キノボリトタテグモ	確認状況	実施区域の小規模樹林において、春季に幼体の古巣が 1 個確認された。
	一般生態	本州、四国、九州、琉球に分布し、社寺林の樹幹上や古木の樹皮上、低山の切り通しに扉を付けた短い巣をつくる。社寺の石垣や林道の改修工事等により、生息環境が減少しつつある。また、バルーニング（空中分散）を行わず、移動・分散性は低い。
キシノウエトタテグモ	確認状況	実施区域の小規模樹林において、初夏に幼体 2 個体と幼体の巣 5 個、秋季に幼体 1 個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域において、春季に 3 個体が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州に分布し、西日本には少ない。社寺の石垣、崖地や切り通しの地中に穴を掘り、入り口に片開きの扉をつける。社寺の石垣や林道の改修工事等により、生息環境が減少しつつある。また、バルーニング（空中分散）を行わず、移動、分散性は低い。

表 5.2.8.63(2) 注目すべき土壌動物の確認状況及び一般生態

種名(和名)	項目	内容
ケラ	確認状況	実施区域(St.1)において、夏季に2個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。神奈川県内では低地に広く分布しているが、水田地帯でも声を聞かれることが少なくなっており、減少傾向にあると考えられている。水田付近の湿地に穴を掘って生活する。雄は地中で鳴く。飛翔することができ、灯火にもしばしば飛来する。
クロクビナガカメムシ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる笠張川沿いの草地において、春季に2個体、初夏に2個体が確認された。
	一般生態	本州、四国に分布する。神奈川県内では、横浜市南部と寒川町から各1例ずつの記録がある。生態は不明であるが、雑木林を切り開いた運動場で夕暮時に発見されたり、灯火に飛来したりする。
ヤブガラシグンバイ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる笠張川において、秋季に1個体が確認された。
	一般生態	本州、九州に分布し、ヤブガラシの葉裏に時に群生している。なお、普通にみられる種であるが、神奈川県では採集記録が少ない。
フタボシチビゴミムシ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる笠張川において、秋季に2個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布し、谷戸や河川敷等の湿地周辺のヨシ原等に生息する。水際に堆積したごみ等の下によくみられ、灯火にも飛来する。食性等の詳しい生態は不明瞭な点が多いが、ほとんどのゴミムシ類が肉食であることから、小型昆虫を捕食するなどの肉食を行っていると思われる。
コホソナガゴミムシ	確認状況	実施区域において、初夏に2個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域において、秋季に1個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、九州に分布し、谷戸や河川敷の湿地に生息する。湿地や樹林の改変に伴う湧水量の減少による湿地の乾燥化が、存続を脅かしている。
アイヌケシマグソコガネ	確認状況	実施区域(St.1)において、夏季に1個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国に分布し、海岸や河川敷の植物の根際や落葉下等に生息する。細かい砂の減少や砂場の砂利化、海岸の荒廃等により、生息地が狭められている。

注) 参考：環境省自然環境局野生生物課「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブック7 クモ形類・甲殻類等」(平成18年)
株式会社学会出版センター「クモの生物学」(昭和62年)
神奈川県立生命の星・地球博物館「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(平成18年)

(4) 生息環境等との関わり

① 調査方法

「8.1.1 植物(6) 生育環境等との関わり」同様

② 調査結果

気象、水象、地象の状況は、「8.1.1 植物(6) 生育環境等との関わり」同様

なお、植物の生育環境と動物との関わり及び動物相互の関わりについては、生態系の観点から「8.2 予測」で記述する。

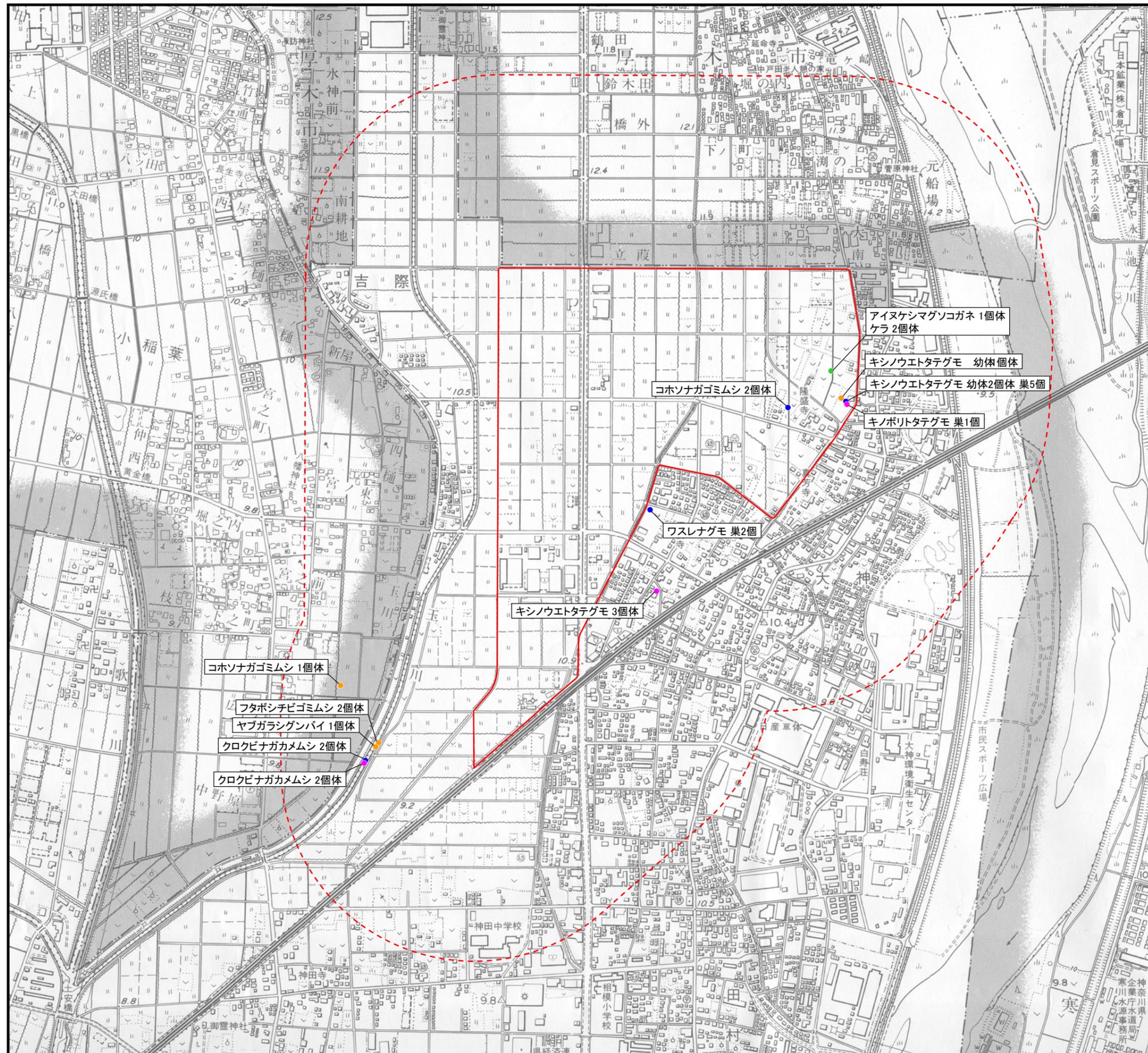
(5) 対象事業の計画の状況

① 調査方法

「8.1.1 植物(6) 生育環境等との関わり」同様

② 調査結果

「8.1.1 植物(6) 生育環境等との関わり」同様



凡 例

- 実施区域
- 調査範囲
- 確認位置 (春季)
- 確認位置 (初夏)
- 確認位置 (夏季)
- 確認位置 (秋季)

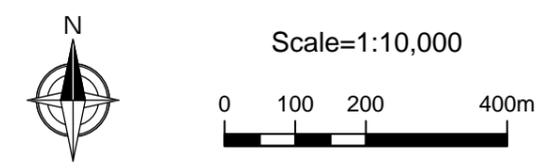


図5.2.8.21
注目すべき土壌動物の確認位置